



# 不妊の原因と治療方法



不妊症の治療は、妊娠の妨げとなっている原因に合わせて、もっとも適した方法を選びながら進めていきます。



女性側の原因と治療

## ① 排卵がうまくいかない(排卵因子)

- 経膈超音波検査で卵胞の大きさを計測し、排卵日予測タイミングを指導します  
必要に応じて、排卵を促す排卵誘発剤が用いられることもあります。  
※排卵誘発剤:内服薬(クロミフェン、レトロゾールなど)、注射剤(HMG製剤、FSH製剤)、hCG注射
- 排卵障害(月経不順)の原因を調べるために、ホルモン検査を行います
  - ☑プロラクチン(乳汁分泌に関するホルモン)
  - ☑血糖値(糖尿病)
  - ☑甲状腺ホルモン
  - ☑黄体ホルモン
  - ☑卵巣機能に関するホルモン

### 排卵障害の代表的疾患

#### 多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)

卵巣の中に卵胞がたくさん存在しているものの、卵巣の表面が硬く厚くなり、排卵が起こりにくくなるのが特徴です。



## ② 卵管が詰まっている(卵管因子)

- 卵管の通過性検査(卵管造影検査)を行います  
子宮口から造影剤を注入し、X線で卵管の通り具合や子宮の形を調べます。  
卵管が詰まっていないか、癒着がないかなどを確認します。
- 卵管閉塞の原因となるクラミジア感染症の検査・治療を行います

## ③ 子宮に問題がある(子宮因子)

- 子宮筋腫、子宮腺筋症などの場合、手術や薬による治療が検討されます
- 子宮頸管粘液検査を行います  
排卵期の子宮頸管粘液の量や質を調べ、精子が子宮内に進入しやすい状態であるかを確認します。

## ④ 胚の受け入れや維持がうまくいかない(免疫性)

- 抗精子抗体の有無を調べます。



男性側の原因と治療

### 精液検査

精子の数、運動率、形態などを調べます。正確な結果を得るため、一定期間の禁欲などを守って行うことが重要です。

男性側にも、以下のような原因がみられることがあります。

- 精子の数が少ない・動きが悪い(造精機能障害)
- 精子の通り道に問題がある(精路通過障害)
- 勃起や射精などに関する問題(性機能障害)

ただし、詳しく検査しても原因が見つからない「原因不明の不妊症」もあり、全体の10~30%ほどを占めるといわれています。

- 一般不妊治療を一定期間(通常、タイミング法を約半年~1年、人工授精を3~5回程度)行っても妊娠に至らない場合
- 卵管の閉塞など、一般不妊治療では対応できない不妊原因が判明した場合
- 女性の年齢が高い場合
- 男性因子



### ステップアップ(体外受精への移行)

体外受精、顕微授精などの治療は、一般不妊治療よりも妊娠率が高くなるのが期待されます。なお、これらの治療は保険適応となっていますが、43歳未満であることや回数制限など一定の条件があります。